
殺人鬼の独白

或羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

殺人鬼の独白

【Nコード】

N8064Y

【作者名】

或羅

【あらすじ】

練習です。拙いのは勘弁してください。

俺は人を殺す。

普通なら理由があるのかも知れないが俺にはない。

俺には理由がない。

あの日、俺は友人を殺した。

そのときは確か、駅近くのファミリーレストランでお昼を取りながらその後の予定について話していた筈だ。

なのに俺はその友人を殺した。

何の前触れもなく、俺自身にもそんなことするつもりはなかった。でも、殺した。

ステーキを食べるために持っていたナイフで首を裂いて殺した。

そのときはまだ人を殺したことがなかったからとにかく困惑した。

次に、全力でその場から逃げた。

逃げるときに何人かそのまま持っていたナイフで切り殺した。

これも、するつもりはなかった。

逃げ切った後も無意識のうちに人を殺した。

持っていたナイフは逃げる途中で捨てた。

だから、工場の近くに落ちていたガラス片で殺した。

木材で殺した。鉄パイプで殺した。大きめの石で殺した。

周りに物がなかったら直接首を絞めて殺した。

これらも全部、するつもりはなかった。

俺は訳が分からなかった。

知らない場所まで来ていたので道を聞こうとしたら殺していた。気を取り直して現在地を聞こうとしたら殺していた。

道を歩けば血肉が溢れた。

建物は紅く染まり、俺の住む町には人がいなくなった。

それからしばらくは何も殺さなかった。殺すべきモノがないのだから当たり前だ。

そしてある日、その町に人が来た。

どうやら日本政府が自衛隊を動かしたらしい。

でも、俺には関係なかった。

来た人を次々と殺していった。

だけど、流石に近代兵器には勝てなかったらしい。

四肢を撃ち抜かれ、毒を喰らい、睡眠薬を打ち込まれ、拘束された。

その後俺が目覚めてから尋問が行われたが、何の成果も得られなかった。

当然だろう。俺には理由がないのだから。

それから裁判で死刑が決まり、猶予として牢に入れられてる訳だ。

・・・なんで、こうなっちまったんだろうなあ。

これを見ている人に告げる。

俺みたいにはならないでくれよ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8064y/>

殺人鬼の独白

2011年11月23日22時52分発行